

抵抗性クロマツで 海岸防災林を再生する

抵抗性クロマツで海岸防災林を再生する



震災で壊滅した海岸林の再生現場



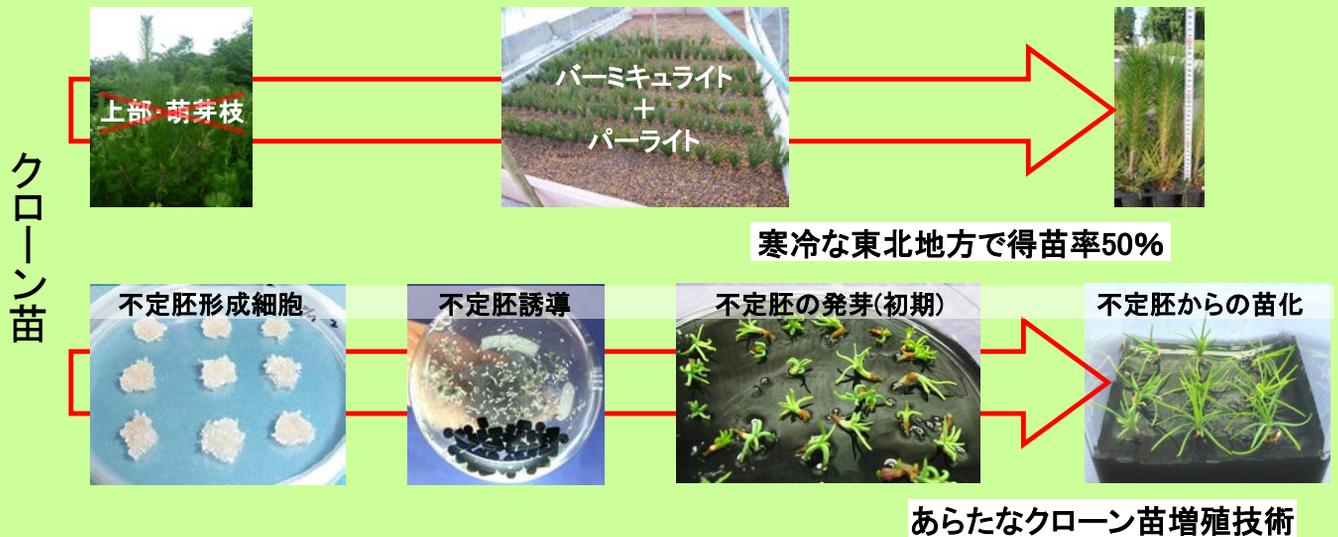
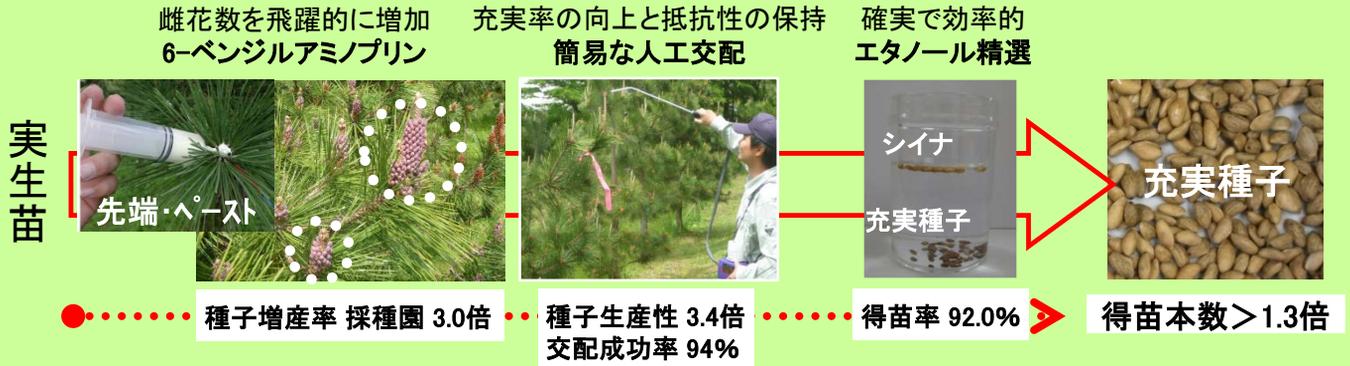
抵抗性(マツ材線虫病)クロマツの苗木

マツ材線虫病が広がりつつある東北において、東日本大震災復興事業に抵抗性クロマツを供給するための取組みをご紹介します。

講師 織部雄一郎 (東北育種場)

抵抗性クロマツで海岸防災林を再生する

マツ材線虫病の被害が拡大している東北地方において、東日本大震災で壊滅した海岸防災林の再生計画でのクロマツ苗木への需要に応えるために、マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツの種苗生産を飛躍的に向上させる技術の開発・実用化を目指しました。



・6-ベンジルアミノプリンを投与して、東北地方において抵抗性クロマツ採種園の優良種子の増産率を3.0倍に向上する技術を開発しました。

・簡易な人工交配によって、東北地方の抵抗性クロマツ採種園の種子生産性を3.4倍に向上させ、9割を超える交配成功率を達成しました。これにより種子の充実率を大幅に向上させ、園外花粉(非抵抗性個体の花粉)による花粉汚染を大幅に低下させることができ、遺伝形質であるマツノザイセンチュウ抵抗性のレベルを保持する採種園管理技術を開発しました。

・東北において、冬期にバーミキュライト80%+パーライト20%混合用土にさし穂をさしつけ、さしつけ床を加温することで、得苗率が50%を超える抵抗性クロマツのさし木増殖技術を開発し、その実用性を事業的な生産規模のさし木施設で確認しました。

・東北産の抵抗性クロマツの未熟な種子から不定胚形成細胞を誘導し、発芽・発根させてクローン毛苗を大量に増殖する技術を開発しました。